

事務事業名	情報システム標準化推進事業	所属部	総務部	所属課	情報システム課
政策名	〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉	所属G	システム運用・行政DX推進グループ	課長名	門脇 史明
施策名	〈05〉時代にあった行政サービスの実現	担当者名	福本 琢也	電話番号	0854-40-1101
目的	対象 A)市民 B)行政機能 意図 公平で効率的なサービスを受ける(提供する)。			(内線)	4702
基本事業	〈012〉業務と組織機構の効率化	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 電算総務管理事業	項目 中事業 中事業名	地方公共団体情報システム標準化推進事業
目的	対象 行政機能 意図 効率的な組織機構で効果的な行政サービスを提供する。				

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
・基幹系業務システム ・ガバメントクラウド及びネットワーク環境	・ガバメントクラウド上に標準準拠システムを構築し、基幹系業務が実施できること。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (R5 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	・標準準拠システム構築に必要なシステム・機器の調達・改修や現行システムからのデータ移行などの整備を行う。あわせて、ガバメントクラウド及びネットワークを構築し運用する。 ・基幹系業務をガバメントクラウド上に構築した標準準拠システムにて稼働する。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動) ○業務毎のFit&Gap ○MISALIOの文字同定作業	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 制度改正に伴う事務のため、特になし

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(計画)
ア 標準化対応業務(全19業務)	業務			0	2
イ ガバメントクラウド接続業務(全17業務)	業務			0	1
ウ 準備作業(Fit&Gap)	%			90.0	100.0
エ 準備作業(文字同定)	%			90.0	100.0

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
・住民記録システム標準化対応 11,315千円	財源内訳	国庫支出金	千円		11,314	99,624
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円		1	28,790
	事業費計	千円	0	0	11,315	128,414

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・Fit&Gapを実施することで、業務毎の現行システムと標準準拠システムとの差異や問題点の洗い出し、業務フローの見直しを実施できた。 ・文字同定作業を実施したことで、住民税特別徴収電子化に対応することができた。
② 事業実施するうえでの課題	・標準準拠システム構築事業者の見込みが立っていない。(RFI実施済 R5.9) ・システム構築費等について事業費の適正な算定が必要である。 ・標準準拠システムはカスタマイズが認められないため、各業務の運用を見直す等対応が必要となるが、住民サービスの低下に繋がらないよう留意することが求められる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・システム構築費等については、より詳細な見積りによる設計を行うことで、抑制が期待できる面もあることから、有効性・効率性を考慮した事業実施を行う。 ・RFI・RFP等を実施し、次期標準準拠システム構築事業者を早期に決定する。